

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 18

水明の郷の歴史とひとびとの営み

香川県 東かがわ市長

ちゅうじょう ひろのり
中條 弘矩



東かがわ市は、その名のとおりに香川県の東端に位置する自然豊かな町である。南に阿讃山脈、北に瀬戸内海を臨み、大きな山、川、平野はなく、温暖少雨の典型的な瀬戸内海気候によって育まれてきた土地柄と言える。そのある山懐に水主という地がある。さほど高くもない山々に囲まれた中を、与田川という小さな川が流れ、ほぼ中央に水主神社という鄙びた社がある。その言伝えは古く奈良時代に遡り、創祀の時期は定かでないが朝廷から正一位の官位を授かり、主祭神は、日本書紀にも記されている皇女百襲姫命と言われている。

水主の地名と関係あることかどうかは知らないが、この地の水は清浄で飲料にも適し、名水として知られてきた。とは言え、香川の地は少雨でしかも保水力がなく、昔から農業用水が不足する宿命を背負ってきたが、この地も例外ではなく、水にまつわる苦労の歴史は数知れないものがあつたようである。そのような苦労も、香川用水や農業基盤整備、

パイプライン施設などの整備によって飛躍的に改善され、複雑な水利組合の統合や集落営農など昔では考えられなかったようなことも現実のものとなり今や昔の感がある。

十数年前からこの地には不向きと言われたコシヒカリを作付けし、今ではおいしい「みずし米」として好評で、知る人ぞ知るブランドとなりつつある。のどかな土地柄、人柄のなかで意欲的な取り組みがなされていることは誠に心強い限りである。

その地が昨年、記録的な集中豪雨をもたらした台風23号によって大きな被害を受け、深い傷を負うこととなった。途方にくれる人も多かったと思われるが、願わくばチャレンジ精神や営農意欲を損なうことのないよう祈りたい。今は、災害復旧工事がハイピッチで進められているが、一日も早く、虫が飛び交うのどかな水明の郷が蘇えるよう願うばかりである。



水主神社